

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100442		
法人名	株式会社アルカディア		
事業所名	グループホームハピユシ		
所在地	沖縄県那覇市松尾2丁目17番45号		
自己評価作成日	令和6年8月26日	評価結果市町村受理日	令和6年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100442-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和6年 9月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で共同生活を送りながら、認知症の進行を抑え安定した生活が送れる環境を職員と一緒に作っています。
季節を感じられる手工芸や果物を食したり、回想法や認知リハビリテーション、音楽療法、観葉植物や観賞魚の世話は日課となっています。又、イベントなどの活動の様子を動画や写真に収め掲示やスライドショーをみんなで観たりしています。一人ひとりが出来る事を活かしながらその人らしく生活や表現が出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が職員の働きやすい事業所の環境づくりに留意している。申し送りや会議の場で職員が発言しやすいように質問を促したり質問を投げかけている。実際に職員からの意見アイデアを基にケアの見直しも行い、薬剤の管理について看護師から『適度なスペースを確保した方がよい』との提案をうけて薬の保管スペースにゆとりを持たせて環境を整えている。職員から管理者は『頼りになる』と評されており信頼関係がうかがえる。管理者をはじめ職員は利用者の思いの把握について、利用者が主体的に『手伝いたい』と言った事や職員からも意向にそって『お願いできますか』と投げかけ、日々のケアの中で自己決定を促している。また、作業的な造形品作成(貝殻での看板づくり)においては利用者の調子に配慮してやりたい時、やりたくない時、飽きがこないよう無理なく取り組んで見事な作品を完成させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を見やすい場所に掲示して、その理念を基に入居者様が住み慣れた地域の一員として過ごせるよう取り組んでいます。	管理者は職員が理念を意識したケアが実践できるように利用者ケアの検討の際に具体例として理念を持ち出したり、日々のケア・指導場面や外出計画の際に活かすよう心掛けている。また職員も利用者の支援の場面で選択肢を示すことを意識して理念を具体的に実践するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	城岳祭りの企画会議に参加し地域の一員としての活動は来ています。又、入居者様が祭りへ参加し地域とのつながりを持ちながら生活しています。	地域包括ケアセンター主催の祭りの企画会議に地域の事業所として参画したり、感染症対策以降中断していたボランティア受け入れを二ヶ月前から再開して登録者を募っている。またグループホームと同じ階にある地域交流室を一般の講師によるヨガ教室として開放もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修や勉強会で認知症について理解を深めているが地域への発信は来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、運営推進会議絵を開催し事業所の活動や取り組みなど報告し、意見や評価などサービス向上につなげています。令和6年度からは事業所での開催が出来るようになり、より多くの意見が聴けるようになっています。	年6回の運営推進会議の定期開催が確認できる。令和6年度からは対面を通常として開催を再開しており構成メンバーの了承のもと順調に対面開催が継続できている。	構成メンバーの内、地域代表者が不参加の状態が続いている。解決に向けて目処がついた状態とのことだが、その他利用者参加、利用者家族の参加促進、事業所の情報開示と共有を工夫されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所運営でわからないことはチャージャーが介護課に問い合わせたり、推進会議で確認したりとコミュニケーションはとれています	管理者は運営に関する不明点や相談事を質問書を作成し、チャージャーが介護課の担当者と電話やメールでやりとりを行い連携を取り協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修、身体拘束適正化委員会を三カ月に一回開催し、身体拘束をしない方針で取り組んでいます。	身体拘束適正化に関する指針、マニュアルが整備されており、身体拘束適正化委員会を3ヶ月に一回、法人職員で構成して開催していることが確認できた。法人内の各部署の代表者が参加して、その代表者が書面で自部署の職員の報告周知をおこなっており、書面回覧のサインを得ている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、虐待についての理解を深める事で虐待が無い職場環境が作れるよう努めています。又、BPSDなどの情報を共有し、カンファレンスで検討できるようにしています。	那覇市から出ている高齢者虐待防止に関するマニュアルを整備し、定期的に勉強会を行って虐待に関する知識と情報の共有に努めている。管理者は利用者から発信される言動により職員が冷静に支援が行えるよう、利用者の行動・心理症状に応じて都度話し合いを行い、ストレス軽減を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、制度について学ぶことで日頃の困りごとなど成年後見人に相談したりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約では契約内容の説明を行い入居後でも相談説明が出来るようにしています。特に緊急時の対応や延命については状態変更などがあった場合や定期的な説明と同意を取り、最新の情報を契約書に記載するようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱の設置やご家族来所持に、意見や要望を聞いて職員で共有したり、運営推進会議で報告出来る環境は出来ていますが懇親会の開催は出来ていません。	ご家族に対して、利用者の様子を個別に電話やメールで伝えたり、面会の際に職員が家族に対して意見を聴取できるよう配慮している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで職員の意見やアイデアを取り入れ、運営に反映できる様にしています。	管理者は申し送りや会議の場で職員が発言しやすいように質問を促したり、質問を投げかけている。職員からの意見アイデアを基にケアの見直しも行い、薬剤の管理について看護師から『適度なスペースを確保した方がよい』との提案をうけて薬の保管スペースにゆとりを持たせて環境を整えている。職員から管理者は『頼りになる』と評されており信頼関係がうかがえる。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を踏まえての勤務表作成や年5回以上有休取得、残業しない職場作りに努めています。職員のハラスメント対策では勉強会や面談等を行ないメンタルケアに努めています。	管理者は職員の様子を常に気にかけしており、適宜タイミングを見て個別面談を行い早期介入をして悩みの聞き取り、必要な指導を実践している。職場の研修計画についても法定研修以外に職員が希望する研修を募り、計画に組み込み実践することを心掛けている。また資格取得の金銭的補助も事業所が行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学ぶ機会を作り勉強会や研修の参加、資格取得の支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	推進会議に参加し、他事業所と交流することで情報交換が出来、そこで得た事を取り入れながらサービスの向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談で本人の要望や希望を傾聴し入居生活が本人の希望に添う様支援しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族との面談で要望、希望を聞きご本人様が安心して生活が送れる様支援しています。また入居後も情報共有を行い電話や来所時に近況報告を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	かかりつけ医の紹介や訪問歯科など入居時に必要なサービスが利用できるよう、ご家族との話し合いで決めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に家事や活動と一緒にいる事で従事者と要介護者の関係が暮らしを共にする者同士の関係になるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話で近況報告をしたり、面会で会話が出来る体制をとっています。家族に協力していただき好きな食べ物を持ってくるなど本人とご家族の絆が途切れないよう支援しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人も面会に来られています。又、住んでいた地域や思い出の場所の話や散策動画などを観ていただいています。	利用者の馴染の友人や親族が近隣の在住している際は、突然の来訪でも受け入れている。また出身地の風景を撮影した動画を視聴して思い出話のキッカケにするなど人と場の関係性継続に配慮している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話ができるよう食事の席やレク活動の席を調整しながら支援、見守りを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族から困っていることや相談等があった場合は必要に応じて対応するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動や言動、関わりの中で希望や意向の把握に努めています。また知りえた情報はカンファレンス等で情報共有しご本人本位のケアが統一出来るよう努めています。	日々のケアの中で、利用者が主体的に『手伝いたい』と言った事や職員からも意向にそって『お願いできますか』と投げかけ自己決定を促している。作業的な造形品作成(貝殻での看板づくり)においては利用者の調子に配慮してやりたい時、やりたくない時、飽きがこないよう無理なく取り組み見事な作品を完成させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味、嗜好など本人の話を傾聴しながら知りえた情報が生活支援に活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の過ごし方、健康観察、行動観察を行いケース記録として情報が共有できるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録やカンファレンスを基にご家族、関係者との担当者会議を開催しサービス計画書を作成しています。状態に変更があった場合も情報収集し計画書に反映出来るようにしています。	以前は各居室で職員が利用者を担当する担当制を敷いていたが、視野が狭くなることの懸念と利用者全員を支援する意識を重要視して現在は担当制ではない。職員皆が利用者全員を支援する形をとり、計画作成担当者と朝の申し送りやケース会議などと併せて日常から報告連絡相談を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきをケース記録に記入し職員間で情報共有を行っています。又週一回のショートカンファレンスで話し合い、参加出来なかった職員にも議事録を読んでもらい統一したケアが出来るとともに計画書の見直しも行っていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態、変化に対応できるよう情報共有を行ない必要な支援ができるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護ボランティアの方と一緒にレクや会話など行い職員以外でも関わりが持てるように支援しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は本人、ご家族の要望に沿って選択し受診時は生活記録のデータを情報提供を行なっています。緊急時、協力医療機関への相談・受診は職員で対応するなど適切に医療を受けられるようにしています。	協力医をかかりつけ医としている方は7人で他の方は入居前の医療機関へ受診、家族で対応を行っている。家族対応の場合、日々の生活状況を書面にして医療機関へ持参してもらったり、その後の電話連絡や場合によっては上申書を出すケースもある。現在、7人が居宅療養管理指導を受け訪問歯科を月2回利用し、ブラッシング指導や口腔ケアを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や健康観察を行い看護師に相談・助言を受けています。又、施設看護師にもオンコールや状態変化があった場合に随時相談出来るような体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のサマリー作成や入院中の状態確認、退院時の受け入れ態勢について病院関係者と電話で情報共有しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時の意思確認も文書で行っています。又、定期的に変更がないか確認し、状態変化がみられた場合は、かかりつけ医へ相談しインフォームドコンセントを行い看取りについての方針を確認しています。	入居時に利用者本人、家族の意向を確認した上で、看取り介護のガイドラインに則り「看取り介護についての同意書」を得ているが、状況の変化等でかかりつけ医と相談、インフォームドコンセントを行い「看取り介護の計画書」へ進めている。親族の保証人が得られず医療行為についての同意書を得ることが難しい場合、NPO高齢者支援協会との協力体制を進めている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時フローシートに沿って連絡するよう指導と心肺蘇生などの勉強会も行っています。	事故発生時・緊急時対応マニュアルが整備され、日中、夜間・休日毎に対応がフローチャートで掲示されている。24時間オンコールの看護師への連絡網が確立され、職員の安心感につながっている。ヒヤリハット、事故報告は適切に対応され、課題について対応策を都度ごとに検討している。今後、心肺蘇生の実践力を高められるよう訓練を進めている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	避難訓練は年2回実施しており、3月・9月実施、感染症の勉強会も外部講師を招いて実施しています。業務継続策定後の訓練や勉強会も行っています。	3/22に避難訓練を実施。その際、明らかになった課題点を9月30日に夜間想定避難訓練で活かせるよう計画をしている。また業務継続計画は、外部の方を交えて机上訓練、施設内感染対策も勉強会を実施している。備蓄水については大手飲料品メーカーと契約し定期入れ替えの管理を委託している。	

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊厳とプライバシーの確保を損ねないように言葉使いに気を付けたり、個別で入浴を行ったりと人格の尊重を行っています。	受付に個人情報保護方針、利用目的が掲示され、利用者や家族の個人情報の取扱いについて留意し、利用については契約時に同意を得ている。利用者の人格を尊重し、日々のショートカンファレンスや申し送り時は、名前を小声で話す細かな配慮をしている。事業所は定期的に権利擁護の勉強会や「令和5年度沖縄県高齢者権利擁護研修会」へも参加し、学びを深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の着替えの準備や、家事手伝など本人がやりたいことをしてもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿って居室で過ごしたり、くつろげる場所にいてもらうなど自由に本人が選択出来るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に鏡をみていただき髪を整えたり入浴準備で着合わせのアドバイスをしたり、オシャレを楽しめるよう支援しています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け、食器洗いなどは一緒に行っています。又、食事中も声掛けを行っています。	朝食と日曜日のおやつ作りを事業所で行い、昼、夕食は法人厨房から利用者に合わせた形態で配食されている。準備や片づけ、食器洗いを職員と一緒に、2週に1回行う「フルーツま〜さんday」の買い出しに地域の商店などへ一緒に行く事もある。介護度が比較的高く、食事の全介助の方が4人おり、2人の自立された方が家族のように手伝っている様子が窺えた。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録をする事で栄養状態の把握は出 来ています。水分摂取は、お茶のみでなくコー ヒーや紅茶、ORS、水分補水ゼリーなどを飲んで もらい一日の目標水分量が達成できるように努 めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	訪問歯科によるブラッシング指導も受けながら毎 食後の口腔ケアは実施出来ています。ご自分で 歯磨きをする入居者にも毎食後、口腔ケア促しと 声掛けを行っています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	排泄認識の低い入居者には時間誘導行い、夜 間は個別にオムツ交換時間を設定し適正な使用 に努めています。	日中は、6名の方が自立や声掛けなどでトイレ での排泄を支援している。タブレットの排泄チェッ ク表を活用して職員の業務負担を軽減し、記録を 基に目安時間の誘導に努めている。夜間は、5 人の方がセンサーを利用し、転倒リスクを押さ え、安定した睡眠が得られるよう配慮している。 緩下剤の服用を調整し、朝食に乳酸菌飲料や牛 乳を取り入れ自然な排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食 物の工夫や運動への働きかけ等、個々に 応じた予防に取り組んでいる	体操への参加を促し牛乳・ヤクルトの提供や水 分補給をすることで便秘予防は行っています。 排泄記録をする事で排便間隔に合わせて緩下 剤の調整も行っています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々にそっ た支援をしている	入浴日は固定されているが入浴時間は一日を 通して入れるようにしています。又、入浴日に入 ることが出来ない場合や拒否があった場合は翌 日に変更するなど柔軟に対応しています。	週3回のシャワー浴ができるよう職員配置を行 い、座位が安定しない方などは2人介助で支援 している。2名の利用者は自立で入浴されるが、 時々見守りや声掛けをして安全に配慮している。 脱衣所から浴室までは滑らない材質のシートが 敷かれ、濡れた状態でも安全に歩行でき、脱衣 所はヒートショック対策で、サーキュレーターや ヒーターなどが整備されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に午睡できる環境を整え就寝時間は本人に就寝時間を確認するなど意思を尊重しながら支援しています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の薬効についてはミーティング、朝礼などで説明し理解した上で服薬介助ができるようにしています。又、変更や調整があった場合でもその都度、情報提供し観察が出来るようにしています。	1月に誤薬があった為、すぐに再発防止策を検討し実践しており、その後の誤薬は無い。看護師を中心に服薬のセットがなされ、看護師が毎週木曜日に一人ずつの服薬カレンダーへ準備する一連の流れが完成している。全利用者の薬情報をひとつのファイルにまとめる事で、職員がすぐに確認が出来るように工夫し、変更等は申し送り時や日誌を利用して情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク活動や観葉植物の世話、観賞魚の世話など本人のやりたいと思う時にやってもらっています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出、外泊は制限なく行っています。又、散策など本人の希望や職員の声掛けでいつでも外出できるようにしています。	遠方に住まれている家族と外泊を楽しんだり、一緒に海外旅行へ出掛ける利用者もあり、自由に本人が選択出来るように支援している。車イスで乗車できるハイエースを利用して、ゆり祭りへのドライブや波の上ビーチへの外出など、徐々に増やし今後も外出支援を準備中である。日常的にも植物の種を蒔き、水やりなどで外気へ触れる機会を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に金銭管理はしていませんがご家族から小遣い程度のお金は事業所で預かり、嗜好品(飲み物)等は買っています。又、日用品も(歯磨き)等も購入しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があればいつでも電話できる環境は作っています。又ご家族からの電話も本人に繋げるようにしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物などを置いて心地よく過ごせる空間づくりを行っています。室内温度も入居者に確認しながら温度調整を行っています。	リビング、食堂は明るく風通しがよく、窓から通りが見渡せ、都市部にありながら落ち着いた環境になっている。壁面は華美な装飾を避け、手作りの大型カレンダーや季節を感じさせるお月見の貼り絵が準備中であった。利用者や職員は、熱帯魚や金魚の水槽を眺めたり、飼育する事でリラックス、ストレス軽減を図り、日々の生活の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は自由に選択できソファで入居者様同士で座ったりと自由に過ごせるよう配慮しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具の持ち込みは推奨しておりますが入居者全員が持ち込みは行っていません。代わりに写真などを部屋に飾るなど工夫はしています。	居室は、ベット、エアコン、大型洋筆筒が設置され、豊富な収納力を活かし、歩行や車イス移動の安全性が保たれている。車イスのまま使える洗面台が備え付けられ、温水も可能で、洗顔や整容など身支度ができる。使い慣れた家具を家族と一緒に持ち込み、写真を飾っている部屋やベランダへの掃き出し窓のある方は、鉢植えのお花の水やりなどを楽しまれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室に案内板を置き迷うことなく利用できるようにしています。又、廊下には手すりもあり、安全に歩行が出来るよう配慮しています。		